

平成 20 年 6 月 22 日現在

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2007～2008

課題番号：19791656

研究課題名(和文) インターネット上の健康情報の活用に向けての評価方法の開発

研究課題名(英文) Developing a criteria for assessment of Web based health information

研究代表者

遠藤 良仁 (ENDO YOSHIHITO)

岩手県立大学・看護学部・助手

研究者番号：00438087

研究成果の概要：本研究は、インターネット上の健康情報に関する信頼性の判断能力の向上を狙った、看護師・看護学生向けの教材開発である。看護学生を対象に信頼性の判断基準を調査した。結果、看護学生は情報の内容への関心が高いものの、ホームページの管理者やスポンサーといった情報の発信者への関心が低かった。また、検索方法も単一的で高度な検索機能の知識も持っていなかった。そこで、知識の弱い箇所を補えるよう工夫した教材案を作成、授業で使用し評価した。最終的に健康情報に関する具体的な判断基準、検索方法、有用な情報源リンク集などの内容で構成される評価方法のリーフレットを開発した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	0	500,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
総計	1,000,000	150,000	1,150,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護教育学、看護情報学

1. 研究開始当初の背景

近年のインターネットの普及は、一般市民・患者に多様な情報収集を可能にした。しかし、インターネットの信頼性は玉石混淆である。今日の情報化社会において、全ての国民が IT のメリットを享受できるためには、国民が多様な情報の中から信頼できる情報を取捨選択する情報リテラシーの向上が不可欠である。特に健康の情報リテラシーは直接生命に関わる内容である上、今後、病気や症状を持ちながら在宅で生活を送る人口が

増加することが想定され、個々人の情報リテラシーがきわめて重要になってくると考えられる。

英語圏の諸外国では、健康分野についてインターネットを用いて自ら学習し、各自の健康管理を図る一般市民・患者らへのケア・支援が注目されている。Eysenbach は、このような人々(情報の消費者)を対象にした研究分野を Consumer Health Informatics (CHI) と名づけ、CHI の分野を 5 段階に分類した。この分野は、国際医療情報学会 (IMIA) で専

門のワーキンググループが組織され、2006年6月に開催された国際医療情報学会においても、大会のメインテーマとして取り上げられるなど、注目が集まっている。

一方、国内においてCHIの分類にそった研究は皆無に等しい。山内らは国内でこの分野の本格的な研究は2003年以降に開始されたと述べており、CHIの概念はまだ十分に普及しているとは言えない。

私は、Eysenbachの研究分野のもっとも初歩的な研究段階である「情報の消費者の好みやニード、使用法を知る」目的で、看護学部の大学生を対象に、インターネット検索の好みやニード、使用法について調査した。その結果、検索の仕方には決して信頼性の高い検索結果が得られるとは言えないクセがあることが明らかになった。よって、今後は、第二段階として「情報の消費者が健康データを得るためのアプリケーションの作成やそれを評価する方法の開発」の研究を行う必要があると考えられる。

2. 研究の目的

1) 看護学生に特徴的にみられる情報リテラシーの傾向を明らかにするため、看護系の大学生とインターネット上の情報の検索能力自体は一般的に高いと考えられる情報系の大学生との検索の仕方を比較する。

2) 看護学生におけるインターネット上の健康情報に関する信頼性の判断基準の意識を明らかにする。

3) 健康情報検索に関する患者教育用の教材を作成し、評価し、改良する。

3. 研究の方法

1) 大学生におけるインターネット上の健康情報の検索法調査

研究の趣旨を説明し自由意思で参加した学生26名に「糖尿病」「高血圧」「腰痛症」

の3疾患を課題として、検索過程(検索語、アクセスしたWebサイト)を本人に記録してもらった。検索終了後、Eysenbachが示している信頼性の判断基準8項目について実施したか否かの自己チェックを依頼した。分析は結果を学部間で比較した。

Eysenbachの基準項目：E-I. 権威ある機関の検索、E-II. 教員や権威ある機関が紹介するWebサイト使用、E-III. 高度な検索機能の使用、E-IV. 情報の発信源や引用元の確認、E-V. 更新頻度の確認、E-VI. 広告か教育かの目的確認、E-VII. 複数のWebサイトでの比較、E-VIII. 第三者機関による認定の確認。

2) 看護学生におけるインターネット上の健康情報に関する信頼性の判断基準調査

東北地方3県に在住の看護学生164名を対象に、文献検討によって増やした信頼性の判断基準13項目について重視の程度を尋ね、単純集計で傾向をみた。

信頼性の判断基準：1. 管理者の詳細、2. スポンサー、3. 情報源、4. 最終更新日、5. 更新頻度、6. 相互交流、7. 詳しさ、8. 関連情報の網羅、9. リンクの充実、10. Webサイトの使いやすさ、11. レイアウト、12. 図表の適切な活用、13. 音声・動画の活用。

3) 健康情報検索に関する患者教育用の教材開発

2)の結果を基に信頼性の判断基準13項目の結果と、なぜ重視する必要性の説明を補足した教材を作成し、協力の得られた学校で授業を実施、アンケートにて評価した。その結果を基に教材を改良した。

4. 研究成果

1) 大学生におけるインターネット上の健康情報の検索法調査

(1) 対象者の属性

看護学部生(3年生13名、4年生6名)、

情報系学部生（1年生3名、4年生4名）。年齢の中央値は、看護学部生 21 歳、情報系学部生 21 歳。パソコン歴の中央値は、看護学部生 4 年、情報系学部生 5 年。インターネット歴の中央値は、看護学部生 4 年、情報系学部生 5 年であった。

(2) 検索過程

検索方法は、Yahoo!Japan など一般的なポータルサイトで 2 つ程度のキーワードを AND 検索し、検索結果の上位から順にアクセスする傾向が強かった。また、検索内容を変えてもその傾向はほとんど変わらなかった。

(3) 信頼性の判断基準 8 項目の実施項目

利用項目数は看護学部生平均 2.4 個、情報系学部生 2.6 個であった。最多利用項目は「権威ある機関の検索」で、選択者は 80.8% であり、第二位は「複数の Web サイトでの比較」53.8% であったが、他の項目はいずれも 30.8% 以下で、「高度な検索機能の使用」と「第三者機関による認定の確認」の選択者はなかった。(図 1)

(4) 信頼性の判断基準 8 項目の実施状況における学部間の比較

看護学部生の最多利用項目は「権威ある機関の検索」で、第二位は「複数の Web サイトでの比較」であった。

一方、情報系学部生の最多利用項目は「目的の確認」と「複数の Web サイトでの比較」であった。

学部間で有意差がみられた項目は、「権威ある機関の検索」と「目的の確認」で、前者は看護学部生が多く ($P=.01$)、後者は情報系学部生が多かった ($P=.01$)。(図 1)

学部によらず、多くの学生は 1 つまたは 2 つの程度のチェック項目を実施し、それのみに頼って健康情報の信頼性を推し量る傾向が強いことがわかった。特に看護学生が E-I のみに頼る傾向がみられ、意図的に騙そう

とする情報では、多くの視点で判断しなければ誤魔化されてしまうことも考えられ、多角的な視点で信頼性を判断する教育の必要性が示唆された。

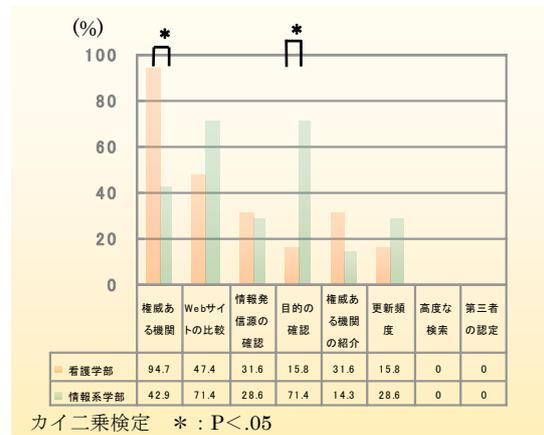


図1 信頼性の判断基準の実施に関する学部間比較

2) 看護学生におけるインターネット上の健康情報に関する信頼性の判断基準調査

(1) 対象者の特性

平均年齢 20.9 ± 2.9 歳。情報リテラシー教育の受講者は 117 名 (71.3%)、未/非受講者 45 名 (27.4%)、不明 2 名 (1.2%)。インターネット歴は、平均 5.5 ± 2.5 年で、利用頻度は、月平均 17.9 日、中央値 10 日、最多 31 日、最少 0 日であった。

2) 看護学生におけるインターネット上の健康情報に関する信頼性の判断基準

インターネット上の健康情報の評価項目に関する重視の程度については、「重視する」と回答した割合がもっとも高かった項目は「情報の詳しさ」(89.6%) で、それ以外で 5 割以上の項目は、「サイトの使いやすさ」(68.3%)、「情報源」(62.8%)、「最終更新日」(61.6%)、「更新頻度」(52.4%)、「レイアウト」・「関連情報」(51.8%) であった。一方、4 割以下を示したのは、「管理者の詳細」(32.9%)、「リンク」(30.5%)、「スポンサ

一」(19.5%)、「音声・動画の活用」(9.8%)で、「相互交流」(7.3%)がもっとも低かった。(図2)

これらのことから、Webサイトの使いやすさとともに情報の新しさや内容の充実に関しては意識しているものの、管理者やスポンサーといった、内容の妥当性や中立性に影響する可能性のある情報発信の目的(例えば教育目的か商業目的かなど)に関する項目は意識されているとは言えず、教育上の課題であることが示唆された。

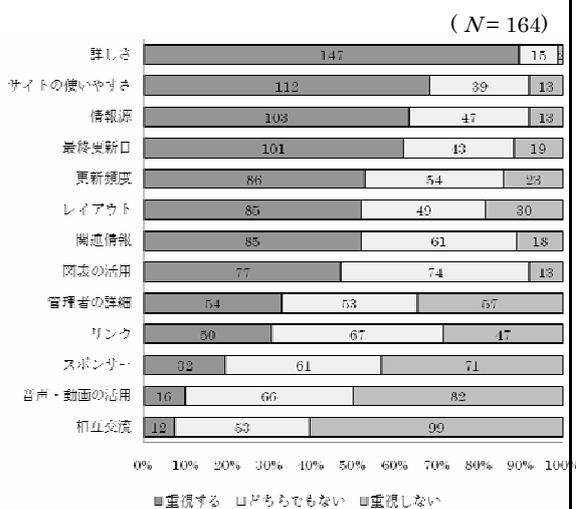


図2 看護学生のインターネット上の健康情報に関する評価基準の重視項目

3) 健康情報検索に関する患者教育用の教材開発

研究2)の結果を基に、信頼性の判断基準基準13項目がなぜ必要なのかといった理由や説明書きを加えた教材案を作成した。次に、協力の得られた看護専門学校で教材案を用いた授業を実施し、授業後のアンケート調査にて評価した。その結果、効果としては学生の健康情報の発信者や出典への関心の高まりを示す記述が多くみられた。改善点としては具体的な検索方法や信頼できる情報源の紹介などの希望が寄せられた。この評価を参考に、(1)健康情報の評価基準、(2)健康情報

の検索方法、(3)有用な健康情報の情報源リンク集、(4)健康情報の評価に関する調査結果という構成に改善した。(図3・4)

今回開発した教材は、看護情報学の分野でも新しい視点であり、看護学生や看護師にとっても自らの健康情報の評価方法を学ぶ上で有用な内容といえる。さらに、健康情報の収集方法、評価方法、有用な情報源が明確に確認できるようになり、患者教育にも活用できる教材となった。



図3 開発した教材の表紙・背表紙



図4 開発した教材の内容

5. 主な発表論文等

[学会発表](計2件)
 遠藤良仁、山内一史、浅沼優子、情報系学生と看護情報学を学んだ看護学部学生のインターネット上の健康情報検索の仕方の差異、

日本看護研究学会雑誌、30(3)、281、2007、
査読有

遠藤良仁、インターネット上の健康情報の評価に関する看護学生の判断基準・学習経験・学習ニーズとその関連、第1回岩手看護学会学術集会抄録集、36、2008、査読有

〔その他〕

リーフレット「その健康情報は信じて良い？
ナースのための質を見極める 13 のチェック
ポイント」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

遠藤 良仁 (ENDO YOSHIHITO)

岩手県立大学・看護学部・助手

研究者番号：00438087